

第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会報告



第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会長
東京都健康長寿医療センター
歯科口腔外科部長・研究所研究部長
平野 浩彦



第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会は、COVID-19感染拡大により、会場での開催からWEBによる開催方法に変更することとなりました。2020年11月14日・15日の2日間、東京都健康長寿医療センターにて、教育講演、シンポジウム、市民公開講座等の各プログラムの収録を行い、12月1日より15日まで、一部プログラムを除きオンデマンドにて配信をいたします。

学会場に足を運び、新しいエビデンスを発表し、新しい知識を得るだけでなく、人と直接対面することが、これまでの学会大会の醍醐味でした。今回は、これまでの学会のライブ感を大切にしたいと考え、実際の演者・座長の先生に登壇いただき、質疑応答やディスカッションも含めて収録いたしました。自宅・職場から視聴しても、臨場感あふれるこれまでの学会の雰囲気ウェブ上でもお楽しみいただけるものと思います。配信期間中「いつでも」、「どこでも」、「何度でも」視聴できるのが一番のメリットです。現在800名以上の方に参加登録を頂いており、このような状況下でも学術活動の歩みを止めないことの大切さを痛感しております。



本大会では、今一度「健康長寿」を見つめなおし、今後のサルコペニア・フレイル対策の方向性を議論する場になればと考え、大会のテーマを「健康長寿を再考する—サルコペニア・フレイル対策は何を目指すのか?—」とさせて頂きました。今注目すべきフレイル健診やフレイル外来、コグニティブフレイルなど、基礎から臨床、地域保健に根差した内容のほか、COVID-19をテーマとしたシンポジウムや市民公開講座などを企画し、明日からの研究・臨床に活かせるバラエティー豊かな内容となっております。

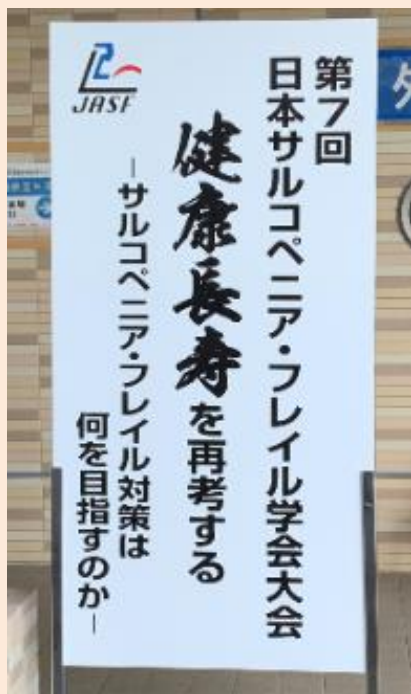
大会の準備や運営にご協力を賜りました学会理事・監事の先生方、参加者の皆様、セミナーや展示、広告等に協賛を頂きました企業の皆様に厚く御礼を申し上げます。



大会長の平野先生と優秀演題賞の皆様



第7回サルコペニア・フレイル学会大会報告記



第7回サルコペニア・フレイル学会大会は、「健康長寿を再考する—サルコペニア・フレイル対策は何を指すのか?—」をテーマにオンデマンドで開催されます。東京都健康長寿医療センターでの収録の様子を取材しました。11月14-15日と本来の学会開催日に収録は行われました。“ライブ感を皆様へ届ける”を合言葉に、会場では日本のサルコペニア・フレイル研究をリードするご高名な先生方のご講演に対し、熱いディスカッションがなされました。

大会1日目は、大会長の平野先生のご挨拶後、シンポジウム1では大会テーマであります「健康長寿を再考する」というセッションがなされました。収録会場は2会場ありましたが、実際の学会そのままにシンポジウム、ランチョンセミナー、優秀演題プレゼンテーション、メモリアル講演と続きます。今回はカヘキシアについてのシンポジウムも開催され、今後この領域の研究の発展を示唆する興味深い内容となりました。教育講演では、「健康長寿の延伸に向けた国の栄養政策の動向」について学ぶ事ができ、「健康長寿の再考」に相応しい盛り沢山のプログラム内容でした。



NTT東日本関東病院
栄養部

上島 順子



大会収録終了後の写真



株式会社エス・エム・エス
ヘルスケア事業部

下平 絵理子

大会2日目は、「COVID-19関連」のシンポジウムからスタートし、ランチョンセミナー4、市民公開講座においても、今直面している問題にどう立ち向かうのか、非常に学びの多い時間でした。高齢者の生活を支えるためのコグニティブフレイルやオーラルフレイルについてのシンポジウムが続きます。2020年度より開始される「フレイル健診」のシンポジウムでは活発な討議がなされ、関心の高さが伺えました。

今回収録された講演動画は、2020年12月1日-15日の会期中、都合の良い時間帯に何度でも繰り返し視聴が可能となっています。Meet the Expert、一般口演（口演発表）は口演動画、一般演題（ポスター発表）はPDFにて会期中に公開されます。参加登録は12月8日までです。市民公開講座は会員でない方でも無料で視聴可能です。 <http://www.kokuhoken.jp/jasf7/>

第6回アジアフレイル・サルコペニア（ACFS）学会 2020香港 参加報告記

6th Asian Conference Online Webinar
for Frailty & Sarcopenia 2020

Date: 30th & 31st October, 2020 (Hong Kong)
Time: 0900 - 1700 (Hong Kong Time)
Venue: The Chinese University of Hong Kong (30th October)
Sheraton Hong Kong, Tsim Sha Tsui, Hong Kong (31st October)

Tentative Keynote Speakers

- Liang Kung Chen (Taiwan)
- Hidenori Arai (Japan)
- Tung Wai Auyeung (Hong Kong)
- Chang Won Won (Korea)
- Wee Shiong Lim (Singapore)
- Francesco Landi (Italy)
- Matteo Cesari (Italy)

Symposiums

- Nutrition, frailty and sarcopenia
- Oral frailty
- Sarcopenic obesity
- Cognitive frailty, physio-cognitive decline syndrome
- Muscle and bone crosstalk
- Muscle and brain crosstalk
- AWGS 2019: Dissemination and challenges
- Social impact on frailty
- Multimodal intervention for frailty
- Update basic research on frailty and sarcopenia

Event website: www.acfs2020.com

Registration via the participating organizations

Organizer: The Hong Kong Geriatrics Society
Co-organizer: AAFS
Participating Organizations: The Japanese Association on Sarcopenia and Frailty, The Korean Geriatrics Society, The Taiwan Association of Integrated Care, The Society of Gerontology and Geriatric Medicine, Society for Geriatric Medicine Singapore (SGMG), Geriatrics Branch of Chinese Medical Association, Malaysia, Philippines, Vietnam, Indonesia, Nepal, Australia, New Zealand
Sponsor: Abbott

10月30日（金）～31日（土）の両日Asian Association for Frailty and Sarcopenia と The Hong Kong Geriatrics Society主催にて香港で開催されました。今学会のテーマは「Present and Future」。今回はコロナ禍が全世界に大きな影響を及ぼし、ACFSも香港での現地開催が困難となり、オンラインでのウェブ開催となりました。海外での国際学会をネット環境でリアルタイムに最新知見や意見交換ができるようになり、学会参加者としてはとても貴重な機会を得ました。

今学会ではFaculty Memberに日本からは荒井秀典先生、櫻井孝先生、若林秀隆先生が選出され、日本からも関心の高さが伺えました。また、配信に際しては事前に一部収録での講演もありましたが、基本的にはライブ配信がメインでした。

今学会の主なキートピックスは

- ・栄養やフレイル、サルコペニア
- ・認知的フレイルや生理的認知機能低下症候群
- ・オーラルフレイル
- ・サルコペニア肥満
- ・筋と脳のクロストーク
- ・筋と骨のクロストーク
- ・フレイルの社会的影響
- ・フレイルに対する多角的な介入
- ・フレイルとサルコペニアの基礎研究のアップデート
- ・AWGS2019:普及と課題



しまばら病院
心臓リハビリテーション室
黄 啓徳

どれもホットなトピックスばかりで興味的な内容であり、ネット上では活発な討議がなされました。また、幅広いアイデアや知識の交換、熱いディスカッションのライブ感を自宅で感じられる学会でもありました。今学会ではネット配信からの参加者は第1日目では527名、第2日目は465名の方がウェブでの視聴という形で参加されていました。次回のACFS2021は、どのような形で開催されるか現段階では未定ですが、引き続きアジアでのフレイルやサルコペニアの研究・臨床が飛躍的に発展するような学術集会になるよう期待したいと思います。



第7回アジア・フレイル・サルコペニア学会開催のご案内



第7回目のアジア・フレイル・サルコペニア学会（ACFS）は令和3年11月12日、13日の2日間、韓国ソウルで開催されることが決定しました。主催は韓国老年医学会となりますが、会長や会場、学会テーマ、キーノートレクチャー、シンポジウム、抄録の提出等の詳細は未定です。決まり次第ホームページで告知します。現時点では、オンサイトでの開催を目指しておりますが、COVID-19の感染状況によっては、2020年のようにオンラインでの開催になる可能性もあります。ホームページを適宜チェックしてください。来年は、サルコペニアの診断基準が改訂となって、約2年が経過しますので、新しい診断基準を用いた研究成果が多く発表されることを期待しております。また、カヘキシアに関する議論も始める予定ですので、関連するシンポジウムにも期待が集まります。是非とも現地でお目にかかるのを楽しみにしています。

日本サルコペニア・フレイル学会 代表理事
国立長寿医療研究センター 理事長
荒井 秀典

サルコペニア・フレイル指導士に関するご報告とお知らせ



日本サルコペニア・
フレイル学会認定指導士
制度委員会 委員長
国立長寿医療研究センター
佐竹 昭介

◆第2回 サルコペニア・フレイル指導士の認定合格者について

2020年4月1日～5月31日に、第2回目のサルコペニア・フレイル指導士の認定申請を受け付けました。認定審査を希望された会員のうち、176名の方がサルコペニア・フレイル指導士として合格し、11月13日の理事会で正式に認定が承認されました（表1：職種別人数）。合格された皆さま、おめでとうございます。サルコペニア・フレイル指導士として、診療や学術など積極的なご活躍をお願い致します。

◆次年度の資格申請について

サルコペニア・フレイル指導士制度は、2018年度から研修会を開始し、2019年度と2020年度の2年間を準備期間（暫定措置期間）と位置付けて、指導士認定の要項などを特例措置としてきました。次年度（2021年4月1日～5月31日）の申請からは、本稼働として運営をいたしますので、資格取得を希望される方は、サルコペニア・フレイル学会HPの「サルコペニア・フレイル指導士に関して」に記載されている「サルコペニア・フレイル指導士 制度規則」をご参照ください。

◆暫定期間に指導士資格取得された方へ

昨年度と今年度の申請にて合格された方々は、本稼働移行に伴い学会への参加確認（1回）が必要になります。暫定期間の指導士資格取得申請時には、学会参加を義務付けていませんでしたが、本稼働移行時までに参加が必要である旨を「サルコペニア・フレイル指導士 制度規則」附則に記載しております。

なお、一部の指導士合格者の方において、資格認定証とともに症例再提出の必要性が通知されている方々につきましては、1症例の提示と審査料¥2000の納付をお願い申し上げます。その他の合格者の方々は、学会参加証の提示のみで、本稼働登録を行います。手続きを行わない場合は、資格を喪失することになりますのでご注意ください。

◆サルコペニア・フレイル指導士web研修会受講時の注意について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、Webによる研修を行っています。研修会は、従来すべての聴講を必須としております。今後のWeb研修会では、出席および聴講確認のため、講師がキーワードを講義の中で伝えますので、研修会終了後、事務局へキーワード等の連絡をお願い致します。キーワードの連絡がない場合は、途中退席とみなし受講証明書の発行ができませんのでご注意ください。

表1：合格者の職種別人数

職種	人数（人）	職種	人数（人）
医師・歯科医師	42	理学療法士	73
看護師	14	作業療法士	17
管理栄養士	13	言語聴覚士	5
薬剤師	3	健康運動指導士	2
歯科衛生士	1	介護支援専門員	1
介護/社会福祉士	2	その他	3

論文紹介—改訂版J-CHS基準—

佐竹昭介先生、荒井秀典先生による改訂版J-CHS(Revised J-CHS criteria)基準についてのレター論文がGeriatrics Gerontology International 2020;20:992-993 (<https://doi.org/10.1111/ggi.14005>)に掲載されました。2001年にリンダ・フリードラが発表した「心血管健康調査 (CHS) 基準」は身体的フレイルを測る基準として広く受け入れられています。その後、「フレイルの進行に関する因子の検討 (#25-11)」研究グループは、よりシンプルで日本人高齢者に合うよう日本語版CHS基準を提唱しました。その際の握力のカットオフ値は、Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS 2014) の基準を採用し男性26kg未満でした。この基準を使った日本におけるフレイル有病率が報告され、新規要介護認定の発生や自立性の喪失の予測因子となることが検証されてきました。

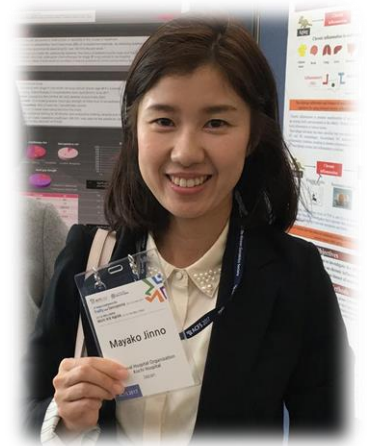
しかし、2019年版のAWGSでは男性の握力のカットオフ値が26kg未満から28kg未満に改訂されたため、日本サルコペニア・フレイル学会の理事会で、握力のカットオフ値をAWGS2019 の基準に合わせること合意されました。また、体重減少に関しても「6か月で、2~3kg以上の意図しない体重減少がありましたか。」から「6か月で、2kg以上の意図しない体重減少がありましたか。」に統一するべきという意見があり、最終的に以下の表のように定義されました。

本改訂により、サルコペニアとフレイルで握力のカットオフ値が僅かに違うことによる混乱を解消し、臨床医によるフレイルおよびサルコペニアのより広範な診断に寄与することが期待されています。

表 改訂版J-CHS基準

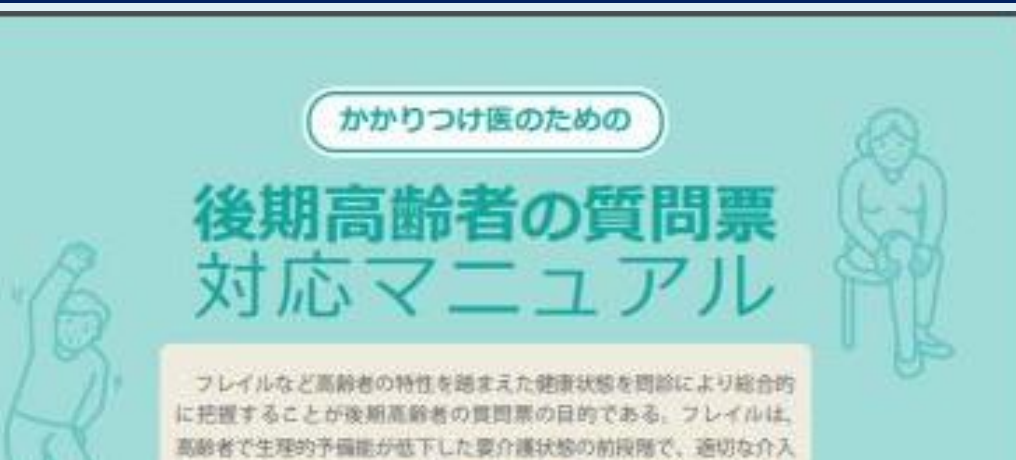
項目	質問および身体機能測定
体重減少	6か月で、2kg以上の意図しない体重減少がありましたか。
筋力低下	握力：男性<28kg, 女性<18kg
疲労感	ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがしますか。
歩行速度	通常歩行速度<1.0m/秒
身体活動	・定期的な運動・スポーツをしていますか。 ・軽い運動・体操をしていますか。

合計が3~5点：フレイル, 1~2点：プレフレイル, 0点：ロバスト



国立病院機構高知病院
リハビリテーション科
神野 麻耶子

後期高齢者の質問票 対応マニュアル



後期高齢者健診において、要介護のリスクがあるかどうかをチェックする「後期高齢者の質問票」が導入されました。かかりつけ医が質問票の回答にどう対応するかのマニュアルを日本老年医学会で作成されています。

<https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/manual.html>

質問文	回答	フレイル	質問の意図	かかりつけ医での初期対応	初期対応時の主な評価内容	想定される病態	問題がある場合の対応の概要
1 あなたの現在の健康状態はいかがですか？	① よい ② まあよい ③ あまりよくない ④ よくない	身体 精神 社会	全般的な健康状態の評価	身体疾患の関与を見直す 薬物有害事象の有無を評価する うつ・アパシーの有無を判断する 生活環境との関係を見直す	身体疾患・老年症候群の診断 脂質・アドヒアランスの評価 ポリファーマシー・薬物有害事象 うつ・意識の評価 生活支援者や介護者の評価、社会資源評価	認知症 老年症候群 薬物有害事象 うつ	・慢性疾患の管理不十分、既往疾患の再発、新規疾患の発生に対するの検査、治療の適地・強化を検討する。 ・該当する症候の原因となる服薬薬を調整する。 ・薬物有害事象の可能性を検討し、ポリファーマシー関連の問題について対応する。
2 毎日の生活に満足していますか？	① 満足 ② やや満足 ③ やや不満 ④ 不満	身体 精神 社会	うつ状態や QOL 低下を反映した生活満足度の評価	QOL が低いと感じるポイントを開く うつ・アパシーの有無を判断する 経済・社会状況要因を見直す	精神・心理状態に影響する老年症候群 QOL の評価 うつ・意識の評価 家族・生活環境、介護サービス利用を含む経済・社会状況の評価	慢性疼痛、不眠、頻尿、活動量低下など うつ、アパシー 認知症	・原因疾患や老年症候群があれば、それに対する治療やケアを優先する。 ・うつであれば治療が必要であり、専門医への紹介を検討する。 ・家族・生活環境に応じて、地域包括支援センターや近隣の保健事業担当者と連携し、地域資源の活用を検討する。
3 1日3食きちんと食べていますか？	① はい ② いいえ	身体 精神 社会	食慾不振ならびに栄養の評価	食べていない理由を聞いて評価する 栄養項目を判断する	栄養状態の評価 口腔機能、味覚・嗅覚評価 食欲低下の要因の個別評価 うつ・意識・認知症の診断 家族・生活環境、経済状況、介護必要度の評価	認知症 老年症候群 薬物有害事象 うつ、認知症	・食慾不振・栄養不足の原因に応じた対応。 ・認知との連携。 ・市町村の管理栄養士等につなぎ、栄養指導を受ける。